

特集

障害のある人も、
ない人も。

ものづくりで

笑顔
つながるまち

ものづくりを通して人の輪が広がり、
人それぞれに喜びを感じる。
市内の福祉施設で、ものづくりから
生まれる「笑顔」を訪ねました。

問合先 障害福祉課 ☎620-1636

市内にある障害福祉施設では、
それぞれの人に合わせた生活の支援
や、精神面でのサポートが行われて
います。

その一つが「ものづくり」。支援す
るのは芸術的な創作活動から、ハン
ドメイドや製造に関わる軽作業など
の生産活動までさまざまですが、「一
つものをつくりあげる」ことで達
成感を感じ、日々の生きがいにもつ
ながっています。また、つくり手と
観覧者・購入者が触れ合うことで、
新たな交流が生まれ、それぞれの活
動の幅が広がります。この冬に開催
する展示会で、作品や製品に触れて
みてはいかがでしょうか。

目標ややりがいで
人生を豊かに





障害福祉センター
ハートフル利用者
たけざわよしりのり
竹澤嘉則さん

つくることは楽しくて、
訓練になって、
人にも喜んでもらえること。



●親しい友人
にプレゼント
したスヌード

編み物好きは

人との交流がきっかけ

「刺繍や編み物が好きで、職員さん
に手伝ってもらいながら、スヌー
ド（ネックウォーマー）をつくって
います」

障害福祉センターハートフルに生
活介護で通う竹澤さんは、笑顔でそ
う語ります。入浴や歩行訓練の空
き時間を見つけては毛糸を使ってス
ヌードを編むのが日課です。外出支
援員との交流の中で手芸に興味を持
つようになり、それを知った職員か
ら訓練の一環として薦められたことか
ら始めました。

「1つつくるのに、10か月くらい
かかります。好きだから、続けられ
るんだと思います」

「人のために何かをしたい」 その気持ちこそが原動力に

編み物は手先の訓練にもなるた
め、一石二鳥だと話す竹澤さん。

「呼吸を忘れてしまうくらい夢中
になってしまうので、職員さんと話し
ながら進めます。自分が楽しいから
好きだからつくっているのですが、で
きあがったものはお世話になってい
る人や友達にプレゼントしています」

身近に生まれる芸術の数々

ハートフル作品展・アールブリュット展



●過去の展示

ハートフル利用者と北摂地域のア
ールブリュット（何物にもとられない
芸術）作家が出品。ダイナミック
かつ緻密で心躍る作品の数々が展示
される。

会場：障害福祉センターハートフル
/日時：12/12（火）～16（土）9:00
～17:00（最終日は15:00まで）

保育士の仕事にあこがれ、人の役
に立ちたいという気持ちを常に持ち
続けており、自分の作品が売り物に
なるのが夢だといいます。

「いつか自分の作品が商品になっ
たら、たとえ10円でも稼げたらいい
な、と。それが目標です。稼いだお
金で、ここに通う仲間にコーヒーの
1杯でもごちそうしてあげたいん
です。人に笑顔になってほしい、と
いうのが、私が作品をつくる理由の
一つです」

ものづくりを通して
「きっかけ」を提供する



地域活動支援センター
菜の花 施設長
おかしんじ
岡真士さん

①吉谷さん(左)と岡さん(右)

行ってみよう

ちかつアートフェスタ

「菜の花」をはじめ市内4か所の地域活動支援センターで制作した作品の展示や体験イベント、自主製品の販売など。年に2～3回、イオンタウン茨木太田で開催。



①吉谷さんの作品。裏には感謝の言葉がつづられている

アートを楽しむことで
生活の幅が広がる喜び

精神科に通院する方が通う「地域活動支援センター菜の花」で施設長を務める岡さん。3年前にアート関連プログラムを始めた際、利用者の意欲的な姿勢に喜びを感じました。

「展示会に出展する共同制作は、今では利用者の方々がメインで企画しています。それを見守りつつ、皆さんの主体的な活動を支援しています。社会活動への参加は個人では難しくても、仲間となら参加しやすいもの。そのようなきっかけづくりが大切だ

と感じました。また、外出が苦手だった方も展示を観るために出かけるなど、生活の幅も広がるんです」

利用者の吉谷さんもまた、岡さんに感激を与えた一人です。

「彼は体調不良の中でも絵を描き続け、2年ほどかけて完成させた作品をついに先日見せてくれました。『投げ出そうとしたこともあったけど、菜の花への感謝や恩返しの意味を込めて、完成させた』と言ってくれて。この2年ほどの支援の過程で彼の日々の努力を見てきたからこそ、胸にこみあげるものがありましたね」

ここにいる人との交流で
作品の形ができていく



就労継続支援B型事業所
わかあゆ 利用者
むらやまゆうこ
村山祐子さん



①作品はイベントなどで商品として販売される



①バリエーションが豊富で、新しい手法に積極的に挑戦している

制作の中で感じる
周りの人のありがたさ

「ハンドメイドでレジン[※]を始めたのは、ここで知り合った友達のリクエストでつくったアクセサリーを、喜んでもらえたのがきっかけなんです」

そう語る村山さんは、病気の治療などで就労が難しくなり「就労継続支援B型事業所わかあゆ」に通っています。事業所が受注する軽作業に取り組みかたわらでつくり続けているのは、レジンや刺繍を使ったアクセサリーなどのハンドメイド商品。事業所に寄附された部品を利用する

ことも多く、それらを活かすために新しいデザインや手法に挑戦することもあるといっています。

「どんな感じに仕上がるかはいつも手探りで、実験のような感じですが。ここに通う人たちの『こうしたらかわいいかも』『こういう物なら買いたい』という声をアイデアに取り入れています。周囲の人や物からヒントをもらい、気づいたら一つの商品が思いがけない形ででき上がっているんです。周りの人に恵まれていると、日々実感しながら制作しています」

※透明な樹脂素材。液体を硬化させて成形する。

障害も、性別も、国籍も超えた

おにも見にクル アート展

昨年よりパワーアップした
アートの世界へようこそ。

12/5^火
12/8^金
Inおにクル

4つの展示会が、一つの会場に集まって行われる今年の「おにも見にクルアート展」。絵画から立体造形、ハンドメイド作品まで、多種多様な作品が楽しめるアートの世界を繰り広げます。展示期間にあわせて、作品の販売やワークショップなどのさまざまなイベントも行われます。

アールブリュット展

ちかつアートフェスタ

ダイバーシティアート展

人権週間にあわせたイベント。障害の有無や年齢・性別・国籍もさまざまな方がつくった個性あふれる作品を展示します。

障害者の手づくり作品展

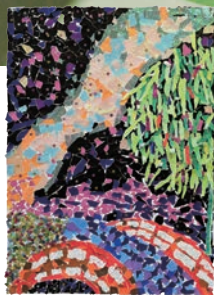
障害者週間にあわせた啓発イベント。障害福祉サービス等事業所の利用者がつくった作品の展示や自主製品を販売。

▼下記参照



①過去の展示の様子

②アクセサリなどの雑貨も販売される



③複数人で作りあげた作品も多い(写真は過去展示作品)

おにクル きたしんホール

12/5(火)

13:00~17:00 オープニングセレモニー・イベント

和太鼓や手話エンターテイメントが展示会のスタートを彩ります。

1階オープンギャラリー・エントランス広場

9:00~19:00* 作品展示

9:00~17:00* 福祉マルシェ

*最終日は16:00まで

10:00~16:00 ワークショップ

ワークショップは日替わりで多彩なプログラムが楽しめます。おにクル館内を巡るクイズラリーも開催!

そのほか
詳しくはコチラ



障害福祉課
井本裕基

“だれにとっても”快適な会場づくりにこだわりました!

車いすの方でもスムーズに展示を観覧できるように、会場レイアウトの3D図面の作成や、実際のレイアウトのシミュレーションを行うほか、障害当事者の方からご意見をいただきながら検討を重ねました。ぜひ、お気軽にお越しください。



コチラもチェック!

【ダイバーシティアート展SORA(創楽)】おにも見にクルアート展での展示物も一部展示します。

12/12(火)~16(土) 場所: 沢良宜いのち・愛・ゆめセンター

12/19(火)~23(土) 場所: 総持寺いのち・愛・ゆめセンター ※来年1/12(金)~17(水)はウクライナアート展を開催。

12/27(水)~来年1/10(水) 場所: 豊川いのち・愛・ゆめセンター ※12/28(木)~来年1/4(木)は休館。